

OSIPPは大阪大学大学院国際公共政策研究科(Osaka School of International Public Policy)の略称です。

## 創設9年目、飛躍期し新体制スタート

### 研究科長に

### 野村教授

### 評議員は高阪教授

今春、創設9年目を迎えたOSIPPは、4月から研究科長に野村美明教授が、評議員に高阪章教授がそれぞれ就任し、新たな体制をスタートさせた。

野村新研究科長は4月8日、OSIPP入学式で祝辞を述べ、「OSIPPの強みは学生の多様性とエネルギーにある」とした上、これまでにOSIPPの学生が培ってきた研究成果を紹介。また大学の独立行政法人化や文部科学省が提唱する「21世紀COEプログラム」

にも言及、「今後のOSIPPのあり方は院生の活動で決まる」として、全力で研究に取り組んでいくよう求めた。

新研究科長によると、OSIPPでは今年度以降、国内外の大学、研究機関を結んだ「遠隔講義」を本格化させる計画があり、学外とOSIPPとの広範な連携と協力を視野に入れた活動を行うと言う。

一方、学内外の多くの実務家、研究者らが院生と活発な議論を展開する「IPP研究会」や「RFS研究会」、「OSIPP政策フォーラム」などの研究会も着実に成果を残しており、

さらに充実させていく方針。

学生こそがOSIPPの力の源泉とみる野村新研究科長は、日ごろから院生との交流を重視。4月は陽光に誘われて、学生と豊中キャンパスを歩いた。豊中市生まれで、阪大法学部入学以来、一貫して阪大で過ごしてきた野村研究科長にとって、キャンパスは「庭のようなもの」。

途中、院生がだれも知らなかった「影の名所」、旧制・浪速高等学校の記念碑を紹介。同校は1950年に歴史を閉じた阪大の前身で、阪大豊中キャンパスが整備されるにあたって、同校OBがその息吹を後輩に伝えようと、記念碑と「浪高の森」を残した。

また、94年のOSIPP創設時から  
(2ページへ)

## 学位記授与式 博士11人、修士35人に

大阪大学大学院学位記授与式が3月25日、吹田キャンパス内にある体育館で行われ、OSIPPでは35人が修士(国際公共政策)の学位を、11人が博士(国際公共政策、=課程博士)の学位を授与された。

この日の授与式は全学合同で行われ、OSIPP修士課程の学位記受領代表者(総代)として内田英俊さんが、博士課程の同代表者(総代)としてMD.KAMAL UDDINさんが、それぞれ岸本忠三総長から学位記を受け取った。式終了後、OSIPP修了者らはOSIPP棟・講義シアターに場所を移し、辻正次研究科長からそれぞれ学位記を受けた。

また、ここでは本年度から創設された「優秀学位論文賞」の授賞式も行われ、前期課程からは内田氏の他、原琴乃、池田丈佑氏、後期課程からはMD.KAMAL UDDIN氏の他、Virgil HAWKINS氏、志馬祥紀氏の6人が賞状と記念品を受け取った(各氏の論文題目は3頁参照)。

この後、大阪市北区内のホテルで卒業記念パーティーが開催され、卒業生、教官、在学生らが学位記授与者を祝福した。

馬、内田、原、池田の六氏  
優秀論文賞にカマル、ホーキンス、志

野村美明教授略歴：1951年生まれ。大阪大学法学部卒、法学修士(大阪大学)、LL.M.(Harvard University Law School)。専門は国際取引法、国際私法(関連分野は国際経済法、紛争解決方法)。2000年4月から02年3月まで大阪大学評議員。

主要著書・論文は、『論点解説 国際取引法』(法律文化社)、『日本と国際法の百年 第7巻国際取引』(国際法学会〔編〕)、『Globalization of Finance: How to Deal with Mandatory Rules』、『Legal Aspects of Globalization-Conflict of Laws, Internet, Capital Markets and Insolvency in a Global Economy』、Kluwer Law Internationalなど多数。